

おおきなつぼのひと

「小人閑居して不善をなす、なんてこのところ感じさせる事件が多いですねえ、ねえねえねえ」

「なんでそう念押しをする」

「だって、最近の少年犯罪の多さとか悪さとかで、なんかあたしの社会的道徳心がそれを許せないような感じがしている」

「? 難しくてよくわからん、第一なんで小人云々の引用をする? 小人とは子供のことなのか?」

「え、これはどう考えても子供のことでしょ? まさか江戸時代の役職名じゃあないでしょう?」

「そこまでわかっているなら、なんで小人閑居して~の意味を調べない?」

「え、子供をほっとくと悪いことするって意味じゃないの?」

「違う、小人は器の小さい人間のこと。だからつまらない人間は暇だと悪いことをしてしまうってこと」

「なんだつまらない人、これじゃ子供が悪いってことになる明確な根拠がないっ!」

「いや、だいたい最初の話からして根拠を求めているわけでもなから、うまいこと古事成句で現在の社会情勢を表現したかっただけだったんじゃない?」

「そだよ。だけど小人って書く以上、きっとそこには子供も暗につまらない人間だって意味しているんじゃない?」

「それはそうかも知れないな、つまないって意味じゃなくまだ若いから、今後に期待したいっていうふうに無理矢理解釈してみることもできないわけではないかも」

「えー! なんで子供だと解釈するとそういうふうに甘い感じになるわけっ! だいたい小人ってば普通ならこびとのことだよ! こびとは駄目っ! 絶対駄目っ!!」

「なんかこびとに恨みがあるのか? 一寸法師はいい話だけだなあ…」

「ちゃうっ! そういう一個人じゃなく、もっと種族的にいるこびと。例えばゲルマンの民話に出てくるこびと」

「トロールとか、ノームとか、ドワーフとか、そんなん?」

「そ、悪さしてる話ばかり、あれは基本的にこびと=子供ってことで子供に悪さをするなって戒めの為にあるに違いない」

「でも、コロポックルとか、キジムナーとか別段悪さしている風でもないけどな」

「どうして日本に話を戻すの!」

「いや、コロポックルはアイム民族の話だし、キジムナーは琉球民族の話だ。いいよなーコロポックル、露の下に住む人ってことだもん。一度会ってみたい」

「だから、西洋的に話を戻してよ」

「白雪姫のこびとは…」

「ほんとは恐いのよ!」

「あ、そう」

「そら見る、きっと子供はもともと悪いものであってそれに社会性を付けさせ良くなっていくことこそが教育。それなのにゆとりの教育でゆとりを与えたものだから暇にな

って悪いことをする。子供に絶対ゆとりを与えてはいけない!」
「でもな、それを言うなら小人窮すれば斯に濫すって言って、つまらない人物は追いつめられたらなににするかわからんって意味の論語…」

「つまり飴と鞭ね」

「なんか違う。だいたい西洋でのこびとででも、中世貴族の間ではこぞってこびとを集めたんだ。こびとは幸運のシンボルだったんだぞ」

「え、こびとって実在したの? あ、つまり子供を集めたってこと?」

「違う、こびとはこびと、こびとはそういうわけで非常に高値で取引された。だからこびとをつくる職人もいたくらいだ」

「あ、それって錬金術でいうところのホムンクルスのことね、そんな人造生命体がそのころはつくれたんだ」

「先天的製造法、栄養学的製造法、外科的製造法、物理的成長抑制製造法、なんかでつくられた。ホムンクルスだとかメルクリウスとかは残念ながらつくられてはいないみたい」

「じゃ、なに? そのやたらたくさんある製造法は?」

「先天的製造法とはこびとの子はこびとってこと、あんまりそういうことはなかったかも知れないけれど、普通の人で小人症の子を産む人の記録などは残っている」

「え、じゃあそれって全部人? そんなん人身売買じゃないのさっ! …奴隷制がある時代だもんなあ」

「栄養学的製造法とはこどもに生まれてから特殊な、というか基本的にビタミンD不足でクル病にして成長を阻害させる方法」

「だんだんイヤな話になっていくなあ」

「外科的製造法は成長しないように骨削るとかなんとかかんとか」

「で、物理的って? どっか重力の大きい部屋でも用意するの?」

「壺から足と手と頭が出るように密封する、そのまま成長させ、これ以上の成長がないと判断したら壺を割って取り出す。これだと壺の大きさできっちり欲しい大きさのこびとを製造できるから、なかなかよい方法だな」

「うー、もっとできればファンタジックなこびとがいいのにい」

「と、まあそういうこびとは幸運のシンボルなわけ」

「全然」

「その当時はそう思われていたんだから」

「とにかく、小人は悪いってことなんだね!」

「そりゃそうでしょ、小人は大人に対する語だから。器の大きい人のこと」

「むううこっちはまさにおとなだねえ、けど器が大きいって、壺がおっきくなっただけかも」

「壺は屈辱なんかで使われていたなあ。その際故人が蘇って生ある人に不善をなさないように括って埋葬する習慣が、土葬が盛んだった戦前まではあったんだけどお」

「壺に始まり壺に終わる。タコさんみたいだねえ。そしてへびが出てくるの。よーし、壺のおっきい人になろう!」

「だいぶ違う」

おしまい

Maki Rouel 2000,6,28

おまけの蛇足

小人閑居して不善をなす

The devil finds work for idle hands.

小人窮すれば斯に濫す

When a small person is cornered, he resorts to desperate, selfish acts.

